

栃木県栃木市中根八幡遺跡第6次調査概要報告

中根八幡遺跡学術発掘調査団

1. 2020年度調査の概要

中根八幡遺跡は、栃木市南部（旧藤岡町中根）の渡良瀬遊水地（旧赤間沼）に面した台地縁辺部に立地する縄文時代前期～晩期、弥生時代、中世～近世の複合遺跡である。これまで奈良大学と國學院大學栃木短期大学を中心とした調査団によって、「環状盛土遺構」想定範囲を中心に調査を進めてきたが、前期・中期の土器も一定数出土している。また、「環状盛土遺構」中央部には中世～近世に寺院が営まれたとされており、これに関わると思われる遺構・遺物も確認している。これまでに年次報告（中根八幡遺跡学術発掘調査団2016～2020）と、2017年度までの3年間の成果と課題をまとめた（中村・小林ほか2018）。

2019年度は、「環状盛土遺構」推定範囲東側の頂部付近（C区上部）を発掘し、中期後葉～後期後葉の土坑・ピット等の累積を確認し、2020年度はこの範囲を継続調査する予定であった。

しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、移動や集団行動が困難な状況となり、奈良大学からの参加は見送ることとし、國學院大學栃木短期大学でも送迎用バスの定員の2／3の人数に絞って9月3日・4日の2日間のみ調査を実施することとした。このため発掘調査は行わず、B区での土器回収と「盛土」想定範囲の平板測量調査のみを実施した。中根八幡遺跡では2017年に実施したドローンの空撮画像および地表面の写真をもとにSfM／MVS技術による3Dデータをから生成された地形図を提示してきたが、一方で2015年度以降、平板測量も続けており、徐々に3Dにもとづく等高線から置き換えてきた。2020年度は、A区とB区に挟まれた個人宅敷地を対象とした。宅地・畑地・通路として利用されているが、「環状盛土遺構」の中心と想定される低い部分から、盛土と想定される高まりへの傾斜が残された部分として重要である。B区は排水桝の掘削によって掘り込まれた部分で、2016～2017年度に壁面を調査している。掘削排土から回収した土器については2016年度報告で一部を紹介しているが、2020年度は未着手の排土を対象に、1cmメッシュのフルイを用いて遺物を回収した。また、中島将太氏の協力を得て、これまで採集・出土した石器・石製品の図化を進めた。さらに橋本裕子氏には2020年度調査C区SK6の埋設土器（後期初頭）から回収した微細な骨片の鑑定を依頼したので、それぞれその概要を報告する。

中根地区ならびに地権者をはじめとする協力・援助を得た関係各位に謝意を表する。

（小林・中村・桐部・荒木）

2. B区採集の土器

B区では2016年度調査で、阿玉台Ib式・Ⅱ式、勝坂式末期、加曽利E1式・2式・加曽利E4式～安行3a式・3c式、高井東式、晩期の折返口縁土器、東北の瘤付土器第Ⅳ段階が確認されている。今回採集した土器も概ねこの範囲に収まるが、前回抜けていた時期である加曽利E3式を確認した。特筆すべき遺物とし

ては、瘤付土器前半期に位置づけられる微隆線文土器（おそらく注口土器または壺）がある。以下の所見には塚本師也氏・伊沢加奈子氏・福永将大氏の教示を得た。

1～11は中期である。1は阿玉台Ⅰb式、2は阿玉台Ⅲ式、3は中峠0地点型、4は勝坂式再終末期。5～11は加曽利E式で、5～7は加曽利E1式、8は加曽利E2式、9・10は加曽利E3式、11は無文の浅鉢である。

12～54は後期である。13は称名寺Ⅰ式、14～18は称名寺Ⅱ式。19～21は堀之内Ⅰ式、22～25は堀之内Ⅱ式である。26～31は加曽利B1式で、このうち31は浅鉢である。32～43は加曽利B2～3式で、32～35は波状口縁、34～40は平縁、41は鉢である。43～46は曾谷式、47～52は後期安行式で、このうち47は安行Ⅰ式、50は安行Ⅱ式、52は瓢形土器である。53は瘤付土器第Ⅰ～Ⅱ段階の微隆線文を施す。

54～56は晩期で、54は抉りで形成された三叉文をもつものでおそらく安行3a式、55は大洞BC式～CⅠ式の浅鉢である。

57～69は後・晩期の粗製土器である。57は格子目文、58は条線文を施す。59～69は後期後葉～晩期前葉の附点紐線文土器（条線文）である。刻みの位置、口唇部の形態、条線の角度等によって配列した。多くは後期だが、65は晩期と思われる。

4. 石器

これまで出土・採集した石器のうち未報告のものの一部を報告する。出土地点を明記していない資料は調査初年度に寄贈されたA区とB区の間位置する個人宅敷地で採集されていたものの一部である。図化は中島将太氏に委託し、所見も得ているが詳細な事実記載は、石器の全体像の提示を合わせて後日に期したい。

1～7は石鏃で1は凹基無茎、2・3は平基有茎、4～7は凸基有茎である。8は搔器。9～15は打製石斧で、9・10は短冊形、11～15は分銅形である。16～18は磨製石斧で19は未製品。20～26は磨石・敲石類、27は石皿、28～33は石錘（29～31・33は2019年度報告で写真掲載）、34は石剣である。

35は独鈷石と思われる。砂岩の棒状礫を素材とし、ほぼ成形していない。中央部は敲打による抉り部が認められるが、全周せずに裏面中央が未調整である。抉り部は部分的にやや摩耗している。端部には敲打痕が認められ、剥離が伴う。器体左側は欠損している。（中村）

5. 第5次調査C区SK6埋設土器内の人骨について

出土した人骨の殆どが直径1cm未満の骨片であり鑑定できた骨片は非常に少ない。確認できた骨片は緻密骨質が多孔質であり、動物骨ではなく人骨であることは疑いようがない。一般的に火葬した人骨の重量は、男性はおよそ3kg、女性はおよそ2.5kgと推定されている。しかしながら、第5次調査で出土した人骨は非常に少なく1個体分にも満たない量であることは明瞭である。重量だけで判断するなら1個体分である可能性が非常に高い。そのため、骨は1個体と判断した。骨は火葬の際に収縮している上、1cmにも満たない骨片から性別や年齢を推測できる部分は見つからず、残念ながら性別や年齢を特定することは叶わなかった。骨片の一部は四肢骨片であることが分かっているが、詳細な部位については特定できなかった。（橋本裕子）

付記

本調査・整理作業の一部は「文化交流の交差点「栃木」の起源を縄文時代に探るⅡ」として栃木県大学地域連携活動支援事業の助成を得て実施した。

調査・整理参加者（学年は2021年3月現在）

奈良大学：小林青樹 桐部夏帆 荒木清花 吉村璃来

國學院大學栃木短期大学：稲葉あすみ 木村美遥 齋藤保乃花 鶴見直子 村山厚弘 山崎浩輔（日本文化学科2年） 井上琴絵
植松莉聖 小栗咲希 久保有加 佐藤歩実 長坂歩夢 布施晴也 山崎彩恵子（日本文化学科1年） 中村耕作（准教授）
岸美知子（助手） 高垣美菜子（学芸員） 博物館実習Ⅱ受講生

協力者

中根地区 中根八幡神社 栃木市教育委員会 栃木県教育委員会 FMくらら857

大島邦彦 石塚孝市 福富林 田村正昭 小島正明 谷内英樹 高見哲士 永島幸 石川由利子 藤田典夫 塚本師也
福永将大 伊沢加奈子

引用文献

中根八幡遺跡学術発掘調査団 2016～2020 「栃木県栃木市中根八幡遺跡第1～5次発掘調査概要報告」『文化財学報』第34集～第38集

中村耕作・小林青樹・福永将大・岩永祐貴・新里遥・萱原朋奈 2018 「栃木県栃木市中根八幡遺跡における環状盛土遺構の調査－2015年度～2017年度の調査概要－」『日本考古学』第46号

本報告のほか下記において成果の一部を発表した

〔研究発表・報告会〕

中村耕作・遠藤瞳子・桐部夏帆・伊沢加奈子・新里遥・萱原朋奈・福永将大・小林青樹 2020.5.23 「『環状盛土遺構』中に累積する遺構群－栃木市中根八幡遺跡の研究5－」日本考古学協会第86回（2020年度）総会研究発表会（紙上発表）

小林青樹・中村耕作・岩永祐貴・萱原朋奈・新里遥・伊沢加奈子・遠藤瞳子・桐部夏帆 2020.7.18-8.31 「栃木市中根八幡遺跡出土縄文後晩期の土製品類」第66回考古学研究会研究集会（オンライン発表）

國學院大學栃木短期大学考古学研究会・博物館学研究会 2020.10.12 「文化交流の交差点「栃木」の起源を縄文時代に探るⅡ」栃木県大学地域連携活動支援事業中間報告会（オンライン発表）

國學院大學栃木短期大学考古学研究会・博物館学研究会 2021.2.10 「文化交流の交差点「栃木」の起源を縄文時代に探るⅡ」栃木県大学地域連携活動支援事業報告会（オンライン発表）

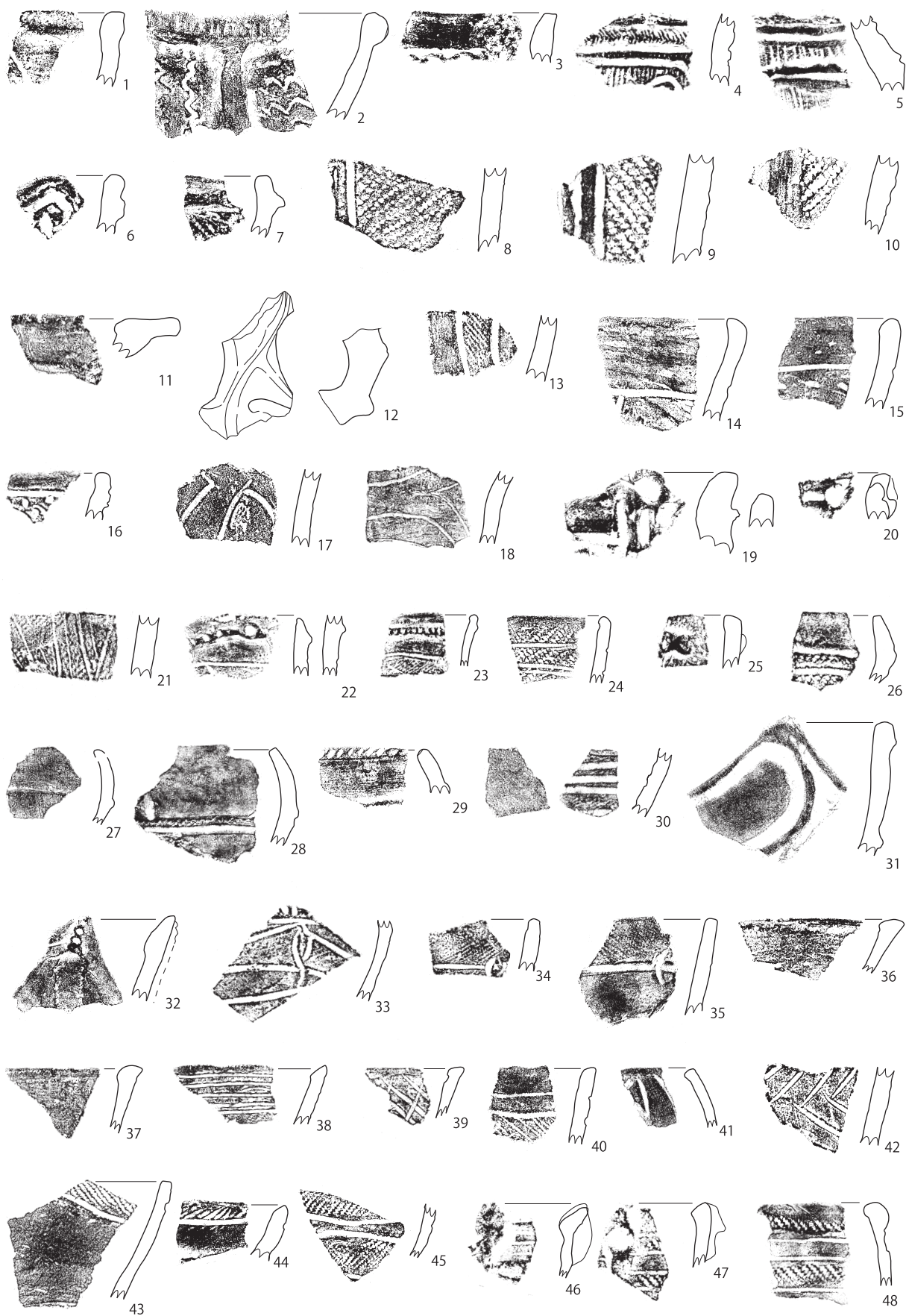
〔概要報告・速報〕

中根八幡遺跡学術発掘調査団 2020.3 「中根八幡遺跡」『栃木県埋蔵文化財保護行政年報42 平成30年度（2018）』栃木県埋蔵文化財調査報告第395集 栃木県教育委員会

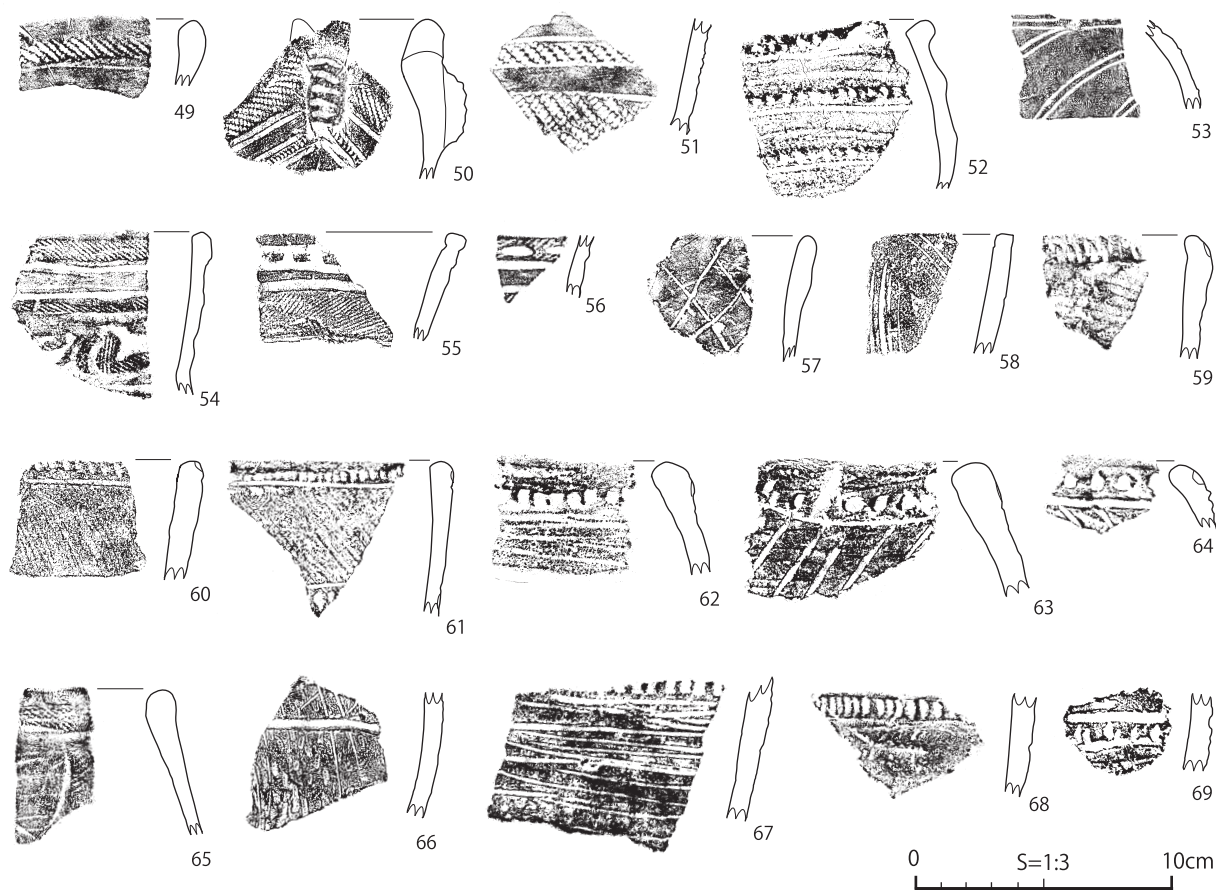
國學院大學栃木短期大学 2020.9 「大学が実施した発掘調査から 中根八幡遺跡」『栃木県埋蔵文化財センターだより』2020年9月 栃木県教育委員会



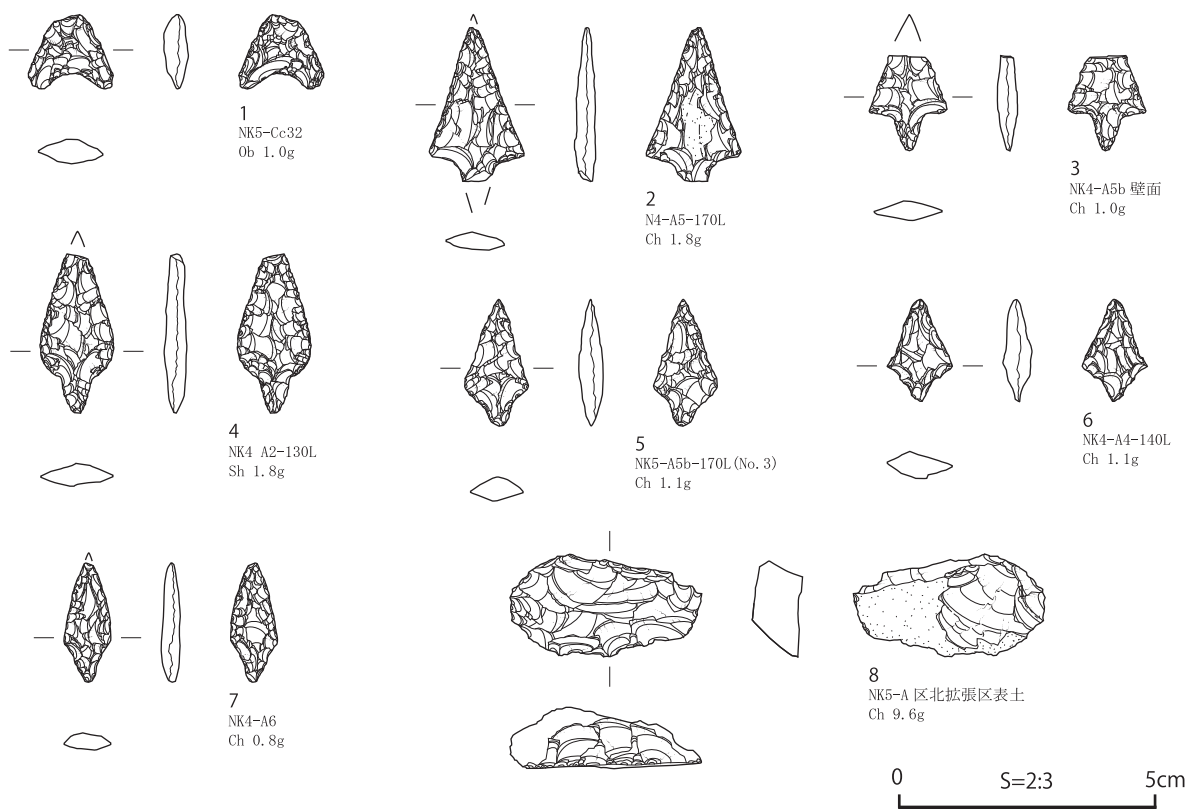
第1図 中根八幡遺跡の位置・地形・「環状盛土遺構」想定範囲と調査区位置



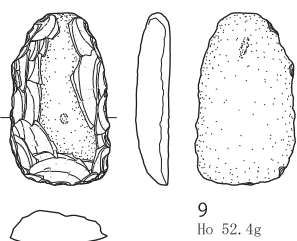
第2図 B区採集土器 (1)



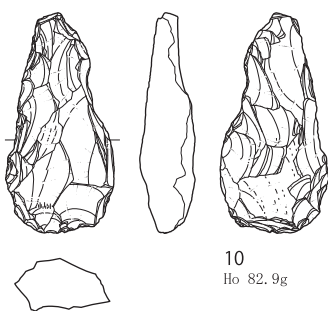
第3図 B区採集土器 (2)



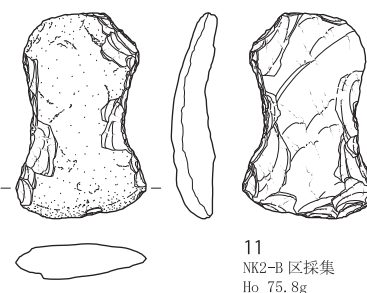
第4図 石器 (1)



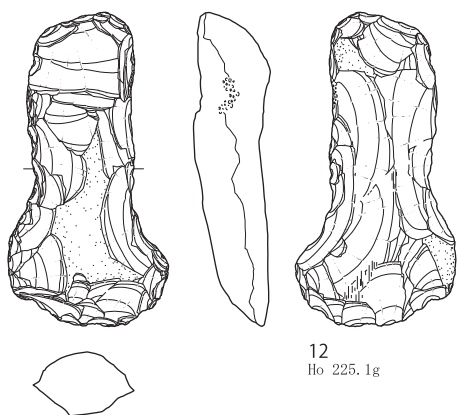
9
Ho 52.4g



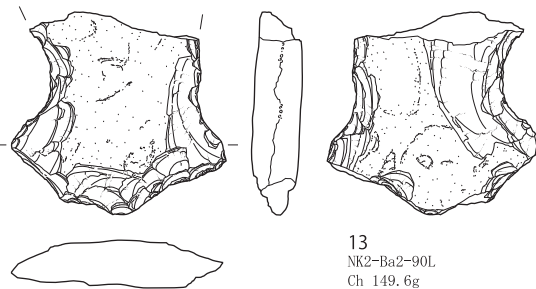
10
Ho 82.9g



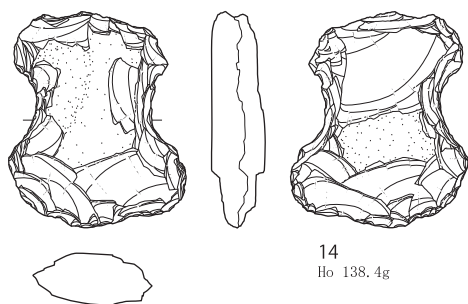
11
NK2-B 区採集
Ho 75.8g



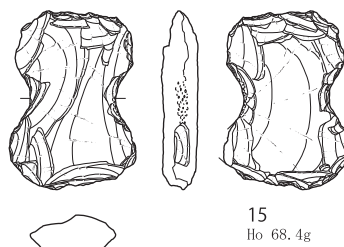
12
Ho 225.1g



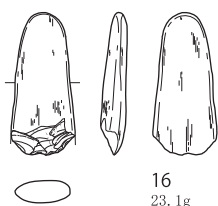
13
NK2-Ba2-90L
Ch 149.6g



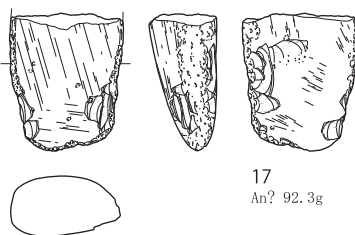
14
Ho 138.4g



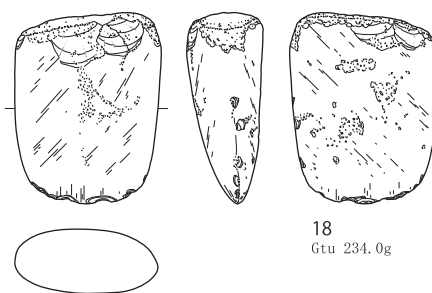
15
Ho 68.4g



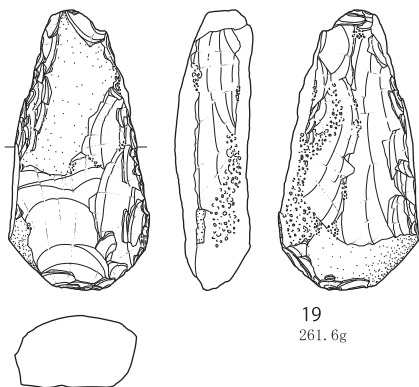
16
23.1g



17
An? 92.3g



18
Gtu 234.0g



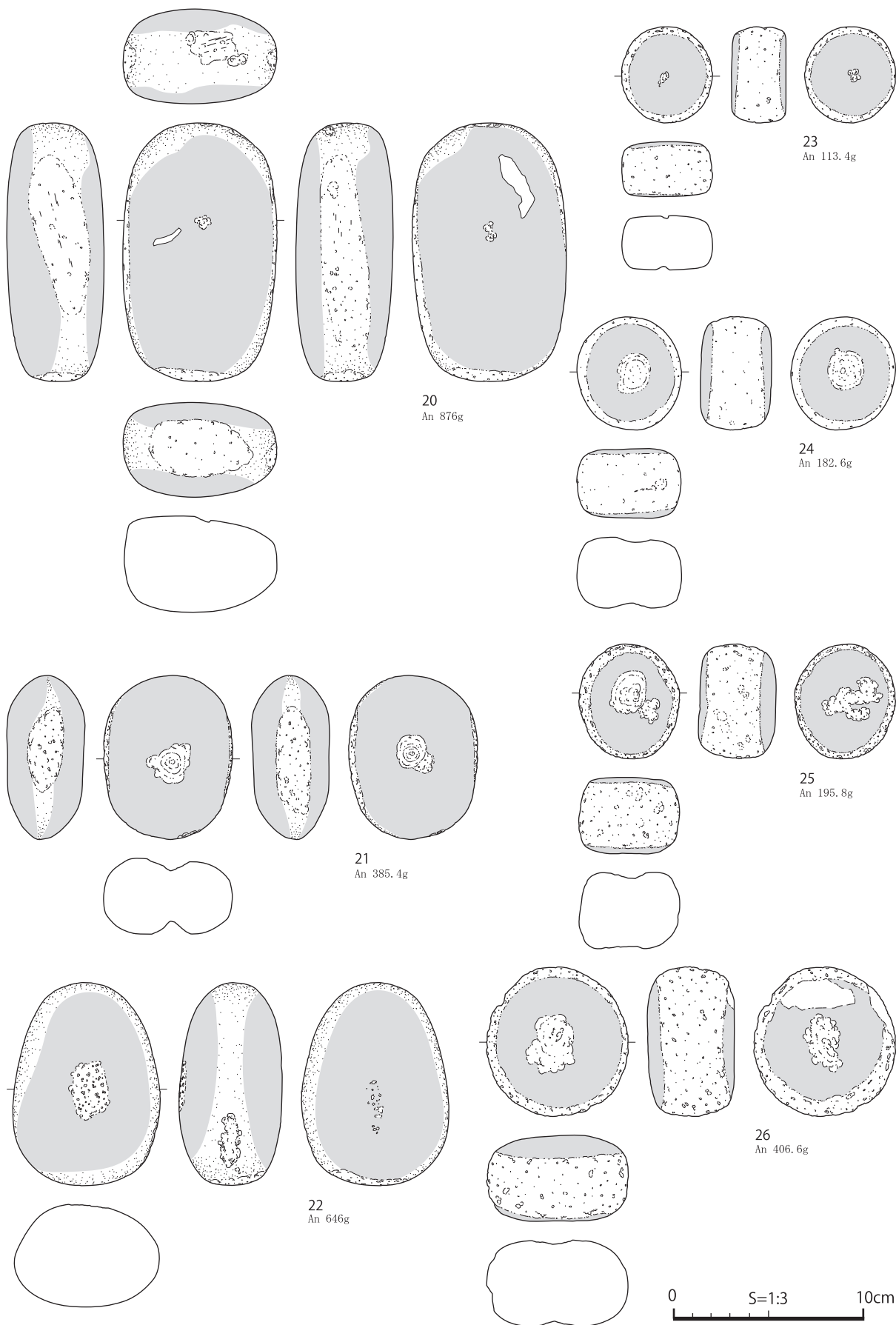
19
261.6g

NK の後の数字は調査次数
A5-150L は A5 グリッド、基準高 (22.2m) から下に 150cm ~ 160cm の人工層位出土を示す
出土地点の記載のないものは、A 区と B 区の間、個人宅敷地採集品

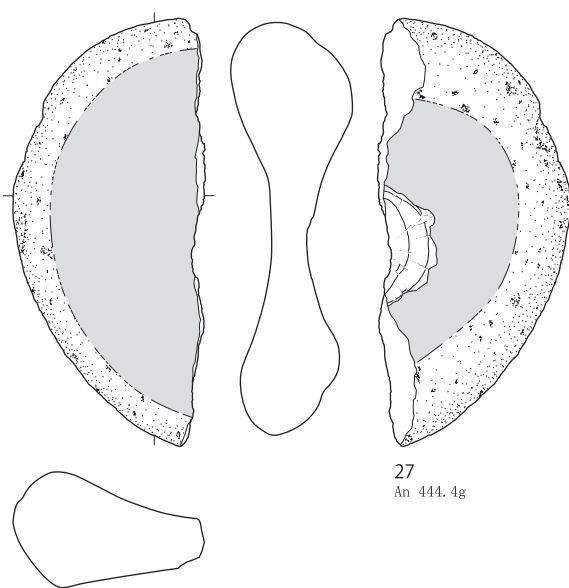
石材略称
Ob: 黒曜石 Ch: チャート Sh: 頁岩 Ho: ホルンフェルス Sa: 砂岩
Gtu: 緑色凝灰岩 An: 安山岩 GSc: 緑泥片岩

0 S=1:3 10cm

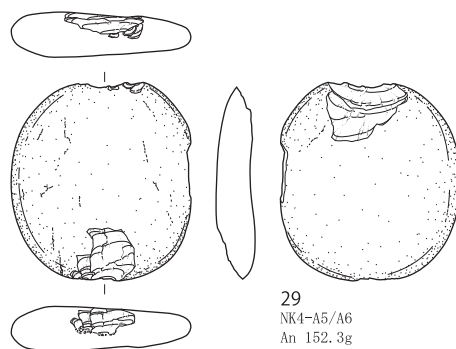
第 5 図 石器 (2)



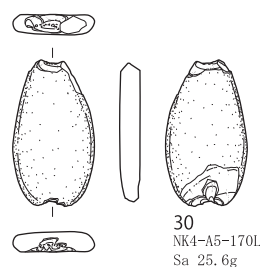
第6図 石器 (3)



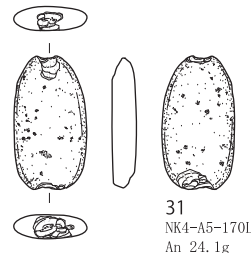
27
An 444.4g



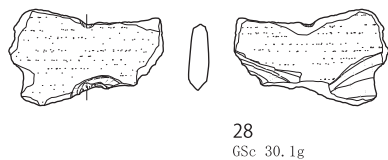
29
NK4-A5/A6
An 152.3g



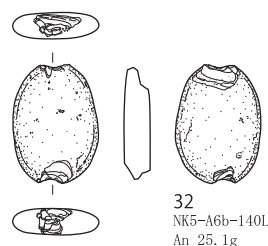
30
NK4-A5-170L
Sa 25.6g



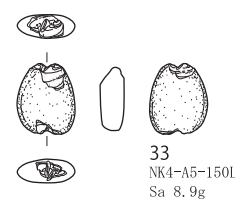
31
NK4-A5-170L
An 24.1g



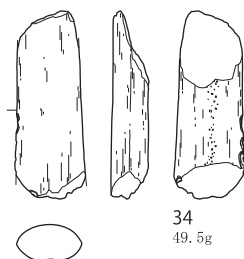
28
GSc 30.1g



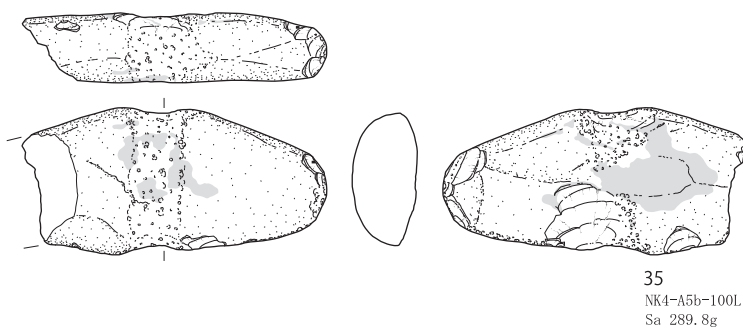
32
NK5-A6b-140L
An 25.1g



33
NK4-A5-150L
Sa 8.9g



34
49.5g



35
NK4-A5b-100L
Sa 289.8g

0 S=1:3 10cm

第7図 石器 (4)